



これから始まる学校生活がとても楽しみ／大堀小学校入学式（13ページに関連記事）

■ 今月の主な内容

- 東日本大震災 P.2
- 全日本マスターズスキー選手権 P.4
- 瀬見小学校が136年の歴史に幕 P.8
- まちの話題 P.10
- ふるさと日記 P.12
- 健康福祉課からのお知らせ P.14
- 町財政の健全化 P.16
- 人事異動 P.20

▶ 毎月21日は、健康の日です。

一人ひとりが健康について考え、できることから取り組みましょう。

春の交通安全運動が始まります

運動の基本 子どもと高齢者の交通事故防止

実施期間 5月11日(水)～20日(金)

※次回の年金相談日は5月10日(火)です。

東日本大震災、被災地復興に向け

東北の一員としての取り組み

再び震度5弱の地震

4月7日23時32分頃、東北地方太平洋沖地震の余震とみられる大きな地震が発生し、当町では再び震度5弱を記録しました。地震の揺れが収まる前に停電となったため、直ちに防災無線で消防団に安否と被害の調査を依頼。翌8日の午前1時に分団長が集合し、主だった被害がないことを確認しました。

停電は、同日8時10分頃復旧しましたが、陸羽東線が点検のため運行を停止。思いのほか点検作業が長引き高校生の通学に影響があったため、町では14日と15日の2日間、臨時のバスを新庄駅まで運行しました。

避難所を開設

対策本部では3月16日に、避難所として健康福祉プラザ保養センターも



▲3月26日、大船渡市（旧三陸町）の8つの避難所へおにぎりといも煮を炊き出ししました。子どもたちは、とてもおいしそうに食べてくれました

がみ”と町立中央公民館を設定。被災されたみなさんを24時間体制で受け入れる体制を整えました。また、町内の旅館でも避難者を受け入れ。避難者の人数が一番多かったのは、中央公民館と保養センターあわせて、3月31日の45人。旅館では3月19日に210人でした。このほかにも、町内の親戚など一般家庭にも27人の方たちが避難されておりあります。

4月6日、津波で家を失った方や福島第1原子力発電所の事故の影響で長期間避難せざるをえない方たちのため、閉鎖中



▲避難する人たちが快適に過ごせるよう、ボランティアと中学生のみなさんが懸命に掃除してくれました（最上寮）

の最上中学校寄宿舎「最上寮」を長期滞在型の避難所として開設しました。開設にあたっては、建設課が建物内を整備。長年使用されなかつたためほりだらけだった室内をボランティアと中学生のみなさんが「自分たちでできることをしたい」と、清掃に取り組んでくれました。おかげで寮は、見違えるほどきれいになりました。

寮へ移った避難者は、「プライベートな空間ができ、落ち着くことができず」と話してくれました。食事は、栄養が偏らないよう町社会福祉協議会に調理業務を委託しています。4月18日現在、保養センターには5人、最上寮では22人の方々が避難生活を送っています。

被災者への支援

対策本部では地震のあった直後から支援助資と義援金の受け付けを始め、町民のみなさんから多くの善意が寄せられました。



▲旧三陸町のために寄せられた義援金を大船渡市の戸田公明市長へ手渡しました（大船渡市役所）

こうした善意は、共同募金会への送金をはじめ、3月13・17・26日、4月6日の4回にわたって、友好関係にある岩手県大船渡市へ届けてきました。

3月26日は、ボランティアのみなさんが午前3時からおにぎり1000個を作ってくれました。現地ではいも煮の炊き出しも行い、大船渡市のみなさんから「遠いところありがとうございます。みなさんから元気をいただきました」とお礼の言葉を頂戴しました。

4月10日には、宮城県南三陸町へ支援助資を届け、黒沢地区のみなさんが餅つきを行い給食センターの職員が牛丼を炊き出ししました。また、福島第1

原子力発電所の事故の影響を受けた東京都板橋区(防災協定町村)へ500ミリリットル入りペットボトルの水20,000本を提供しました。このほかにも、最上地区の8市町村が協力し宮城県石巻市へ3月31日から4月5日にわたり、おにぎりや汁物を提供する取り組みを行なってきました。



▲黒沢地区と給食センターのみなさんの炊き出しに被災者のみなさんはとても喜んでくれました(南三陸町)

民間では、もがみ南部商工会とJAN新庄もがみ最上支店と観光協会の青年部のみなさん(3月20日岩手県大船渡市)、NPO法人やまなみ(3月21日宮城県気仙沼市、4月3日同石巻市)、町内の若者たちが組織するおたがいさまプロジェクト(小野貴之代表、3月23日岩手県大槌町、4月8日宮城県南三陸町、4月9日同女川町)立小路夢蜆の会(4月16日気仙沼市)など、現地へ支援物資の運搬や炊き出しなどの活動で支援しております。また、NPO法人やまなみでは4月13日から22日まで



▲立小路の「夢蜆の会」は、雑煮のほかあんこやきなこ餅を炊き出し(気仙沼市本吉地区)

の10日間、石巻市の被災者に無料の日帰り入浴プランを実施しています。

町内に避難している子どもたちへのあたたかい贈り物をしてくれた方々もいます。赤倉地区に避難している子どもたちには、赤倉小PTA母親委員会のほか、赤倉小学校・あかくら幼稚園の職員が、衣類や学用品をプレゼントしました。向町地区に避難している子どもたちへは、沼田建設株式会社の社員が組織する「づるはしの会」と丸徳



▲つるはしの会が子どもたちに学用品などを寄付

ふるせ、森紙店から習字道具や文房具、靴、運動着、雨具などがプレゼントされました。子どもたちは、「大切に使います。ありがとうございます」とお礼の言葉を述べ、早速新しい靴に足を入れ、笑みを浮かべていました。また、避難者への美容ボランティアやバイオリンの演奏、食事の提供をしてくれた方々もおり、避難者の方は、「最上町に避難してきて良かった。本当にありがとうございました」と感激していました。

免除することも決定しています。町観光協会では、観光業に震災の影響が深刻化していることから3月28日から5月9日までの期間、石巻市役所から2泊3日の6食付8000円(自己負担分)の宿泊プランを実施しています。さらに4月22日から、町は1000人分の宿泊料を全額助成し、大船渡市と南三陸町も対象に加え、無料で招待します。

東北の一員として

もがみ南部商工会の「なかよしスタンプ会」と「最上はいつと会」の会員のみなさんは、売上金の一部を義援金とする「がんばろう東北!応援キャンペーン」を行なっています。

今回の地震に対し、プロサツカーの力力選手やスイスのエシュリコン村のロバート・マイヤー村長と議会の方々から被災された方々へのお見舞いのメールが寄せられています。

地域経済活性化の取り組み

対策本部では、地震による影響で地域経済の停滞を懸念し、地域経済対策会議を設置しました。平成23年度の公共事業を早期に発注するほか、被災者に対する雇用支援や避難されている方や地震の影響で仕事へ行けない方、できない方への相談窓口を交流促進課に設置することとしました。被災地から避難された方々が町内の温泉旅館を利用することに對して、入湯税の減免と1泊につき1000円(一人)の補助

を決定し、旅館の温泉使用料を半年間免除することも決定しています。町観光協会では、観光業に震災の影響が深刻化していることから3月28日から5月9日までの期間、石巻市役所から2泊3日の6食付8000円(自己負担分)の宿泊プランを実施しています。さらに4月22日から、町は1000人分の宿泊料を全額助成し、大船渡市と南三陸町も対象に加え、無料で招待します。

今号では、この度の震災でボランティア活動を行なった方々の一部を紹介しています。ほかにも、こんなボランティア活動に取り組んでいるなどの情報をお持ちでしたら、総務課まちづくり推進室までご連絡ください。

○連絡先

総務課まちづくり推進室 TEL 43・2261(直通)